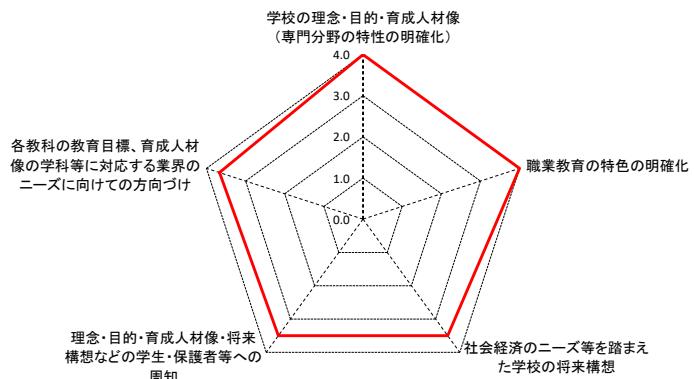


令和3年度 学校関係者評価のまとめ <学校関係者評価委員による評価と意見(改善策)>

くしろせんもん学校

1 教育理念・目標

	4	3	2	1	平均	昨年度
学校の理念・目的・育成人材像(専門分野の特性の明確化)	6	0	0	0	4.0	4.0
職業教育の特色の明確化	6	0	0	0	4.0	4.0
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想	3	3	0	0	3.5	3.2
理念・目的・育成人材像・将来構想などの学生・保護者等への周知	3	3	0	0	3.5	3.5
各教科の教育目標、育成人材像の学科等に対応する業界のニーズに向けた方向づけ	4	2	0	0	3.7	4.0



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

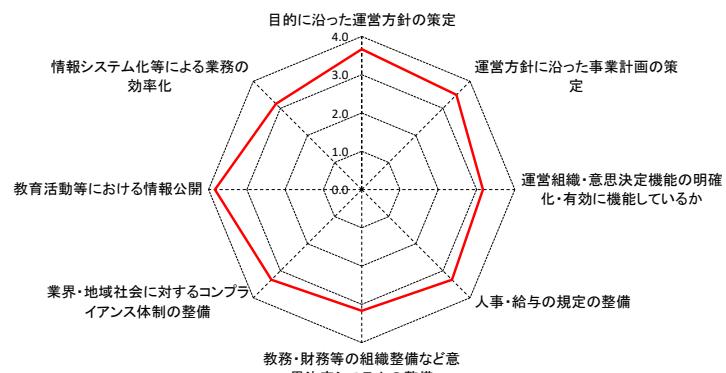
●地域の課題、学生の実情を踏まえたうえでの理念・目標になっており、ホームページや学校案内等からその願いが伝わっています。

- 入学式後の保護者説明会が開催できたとのことで、そこで種々お伝え出来たのは良かったと思います。
- 技専生においては、ここに来るまでの人生経験で得た様々な考え方をお持ちでしょうが、この学校で得ようとするものには高卒生とは変わるものでは無いでしょう。年齢・経験にかかわりなくそこにある理念・目的等につき、グループワークにより相互に確認し合う、ピアセッションのような学びも充実して行けば良いと考えます。
- 業界ニーズに対しては十分認識された上での組立がなされていると考えますが、社会情勢と各事業所での個別状況によっていろいろと変化すると思いますので、常々フレッシュな情報収集に努められることを期待します。

●今年度も新型コロナウイルス感染症対策により、例年とは違った学校運営を求められる中、学校の理念・目的・育成人材像を示すことや職業教育の特色の明確化などを進め、外部への発信も工夫するなど積極的な取り組み姿勢を感じます。今後も外部への発信等引き続き工夫を重ねていただき、学校関係者ののみならず地域住民にも浸透するよう取り組みを進めていただきたい。

2 学校運営

	4	3	2	1	平均	昨年度
目的に沿った運営方針の策定	4	2	0	0	3.7	3.8
運営方針に沿った事業計画の策定	3	3	0	0	3.5	3.7
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	1	5	0	0	3.2	3.0
人事・給与の規定の整備	2	4	0	0	3.3	2.8
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	1	5	0	0	3.2	2.8
業界・地域社会に対するコンプライアンス体制の整備	2	4	0	0	3.3	3.5
教育活動等における情報公開	5	1	0	0	3.8	4.0
情報システム化等による業務の効率化	1	5	0	0	3.2	3.0



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

●私たち委員にとってやはり一番把握しにくい項目ですが、これまでのご関係者の発言、学校自己評価の内容、こちらの受け止めを総合して記載させていただきました。

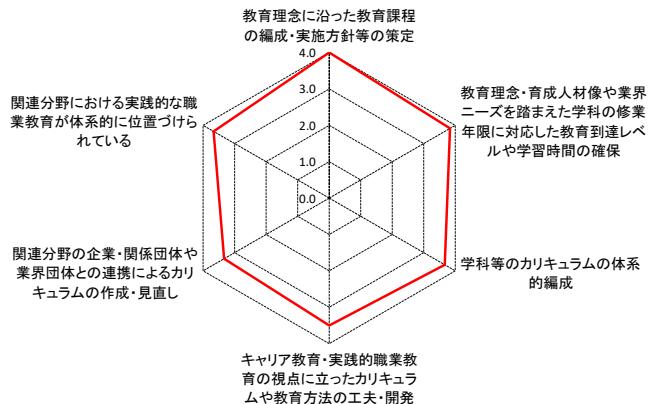
●昨今はその組織のガバナンスが細やかに注目され、評価されることとなりましたが、教育の現場こそ、そのところを整備していかなければならないと思います。真摯にコンプライアンスに磨きをかけることがその基盤となることと考えます。

●一部分では、改善が進んでいない様子が見られるものの、様々な工夫のもと運営を進められている様子も見られるようになってきています。財政的な問題から進まないこともあるようですが、今後も課題を解決に向けて少しづつでも前進いただきその積み上げによる成果を期待します。

3 教育活動

(1)教育課程

	4	3	2	1	平均	昨年度
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定	6	0	0	0	4.0	4.0
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保	5	1	0	0	3.8	3.8
学科等のカリキュラムの体系的編成	4	2	0	0	3.7	3.8
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	3	3	0	0	3.5	4.0
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	2	4	0	0	3.3	3.8
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	4	2	0	0	3.7	3.7

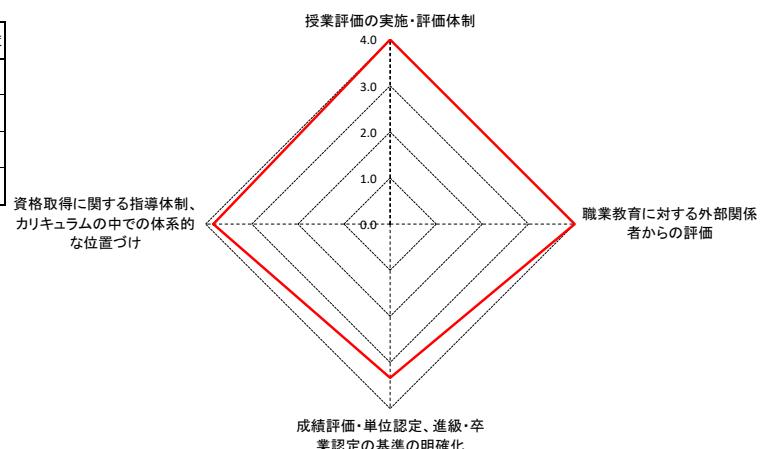


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 教育課程は、コアカリキュラムの導入など、"しばり"が強められている状況であるが、少しでも学生の実状に合わせた科目がつくれないか、改廃とともに内容の一部変更なども積極的にご検討いただきたい。(ex.キャリアプランニング論、ストレスマネジメント、コミュニケーション論など)
- 令和3年度も介護環境科における「地域福祉論」の展開にかかわらせていただきました。市内の多くの専門職者やボランタリーな地域住民のみなさんからの学びでは学内だけでは得られない充実した経験となったと思います。これは、その学外での学びを紡いでしっかりと2年間のカリキュラムに体系的に組み込んだ担当教員のご努力によるものだと思います。
- 限られた時間数の中で、本校では大変たくさんの方の資格取得を含め、多くを盛り込んだものになっていると思います。その多様なカリキュラムにつき、節目節目において、学生に対してしっかりと意識づけする時間が持てれば良いのではないか、と期待します。
- 教育課程の策定やカリキュラムの編成など大変苦心されていることと思いますが、その成果が自己評価にも現れて来ていることに敬意を表します。学生がその時々の社会ニーズにこたえた専門職士となるよう、今後も進めていただきたいと思います。
- 今年度も新型コロナウイルス感染症対策により制約が多い中ではありましたでしたが、実習を行うことができ、これにより学生の成長の機会が確保できたことは良かったと思います。今後も先生方のご苦労や制約はあると思いますが積極的にお取り組みいただきたいと思います。

(2)指導・評価

	4	3	2	1	平均	昨年度
授業評価の実施・評価体制	6	0	0	0	4.0	4.0
職業教育に対する外部関係者からの評価	6	0	0	0	4.0	4.0
成績評価・単位認定・進級・卒業認定の基準の明確化	2	4	0	0	3.3	3.3
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ	5	1	0	0	3.8	3.8

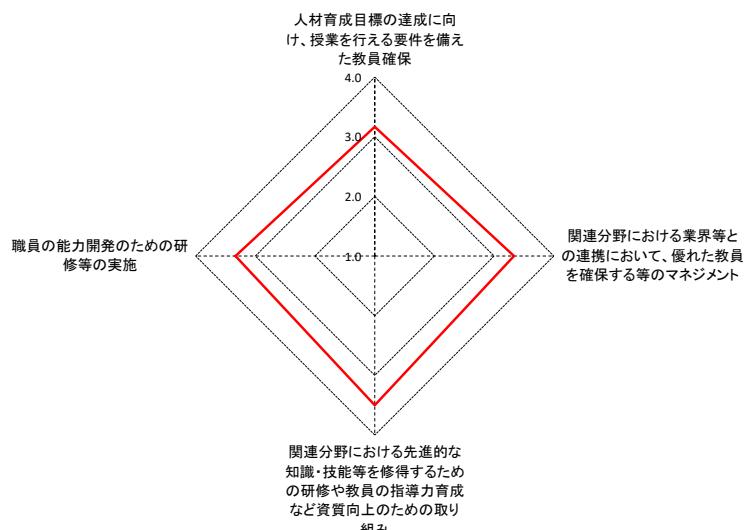


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 学生の実習報告会に参加させていただき、恥ずかしくも発表に対してコメントさせていただいておりますが、何より実際に実習をお受けいただいたい福祉現場の職員の方々からのサポート的なメッセージは学生にとっては何よりも励みになるものだと思います。今後も是非ともご参加を継続いただけるようにご努力していただきたいと思います。
- 今年度も新型コロナウイルス感染症対策による影響があったものの、授業評価や外部評価についてこれまで体制作りを行ってきた結果工夫をしながら対応されたことは良かったと思います。。
- 学生個々の成績評価や進学卒業の判定についてまだ整理できていない部分があると現場で感じていることは公平な評価が制度として確立していないことにもつながっていると思いますので引き続き検討し、講師の方のみならず学生を含めて周知していただきたいと思います。

(3)教員・研修

	4	3	2	1	平均	昨年度
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	1	5	0	0	3.2	3.3
関連分野における業界等との連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	2	4	0	0	3.3	3.3
関連分野における先進的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組み	3	3	0	0	3.5	3.5
職員の能力開発のための研修等の実施	2	4	0	0	3.3	3.5

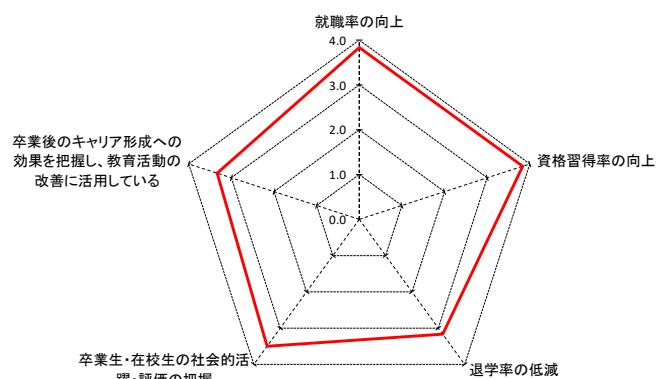


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 常勤の教員の増員を望む声が毎年聞かれますが、人口減少地域の影響が学生の数だけでなく、教職員の確保にも及んでいるのでしょうか。
- ホームページで教職員一覧を拝見しました。非常勤講師も含めて記載すると、より授業内容が伝わるのではないかでしょうか。
- 教員の確保について、新たに採用するということもあるが、現職(現 専任教員)の研修時間等の確保により、"幅を広げる"という方策も考えられる。
- 現職教員の研修研さん機会の確保はその資質向上において非常に重要なことだと思います。個々の職員が自由に課題の設定や手段手法を屈指して進めることを保障することと、法人としてその機会を業務の一環として保障することは、同時並行して積み重ね、整備することが大切と考えます。
- また、教員相互におけるスーパービジョンが展開されれば良いのではないかでしょうか。そのシステムを整備することも肝要だと思います。
- 前年度より自己評価が上がったことは教職員の皆さんのが、学生に魅力ある教育機会の提供を真剣に考えておられることの成果だと感じました。人員面での確保など難しい課題はありますが、学校運営の中でそうした教職員の研修受講意欲を支援するため、人的体制の整備と研修果実を活用できる環境づくりを引き続き進めていただきたいと思います。

4 学修成果

	4	3	2	1	平均	昨年度
就職率の向上	5	1	0	0	3.8	3.8
資格習得率の向上	5	1	0	0	3.8	3.7
退学率の低減	2	3	1	0	3.2	3.3
卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握	3	3	0	0	3.5	3.7
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用している	2	4	0	0	3.3	3.3



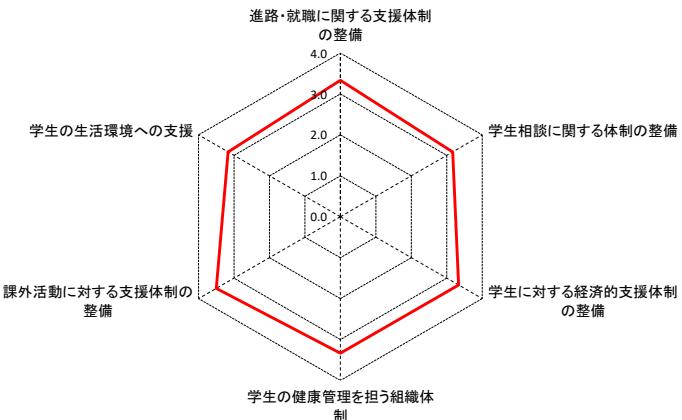
・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 退学者が出ることは残念ですが、退学率の低減よりも、退学に至るまでの過程や新たな進路につなげることが出来たかの方が大切に思います。そこを含めての役割を学校が担っているのだと改めて感じております。
- 全員が介護福祉士を取得出来た介護環境科のご努力には敬服致します。また新たに開設する施設への就職は大変喜ばしいことで、その草創期に働くという栄誉を自覚していただくと今後のモチベーションアップに更につながると思います。
- 退学者が出てしまうというのは本当に残念なことです。教職員のみなさまのご努力には頭が下がりますが、まずは入学当初の早いうちからの学生とのコミュニケーションの強化が期待されます。
- コロナウイルス感染症対策により学生のフォーローアップは、年を重ねるごとに難しくなり大変だったと思います。退学された学生さんが出了ことは残念ではありますが、学生への日々のかかわりによる成果は一定あったものと思います。
- 卒業生と学校・在校生を結び付けていくことは、双方にメリットがあると思いますので課題はあることと思いますが、今後もアプローチをしていただけるようお取り組みをお願いします。

5 学生支援

(1) 支援体制

	4	3	2	1	平均	昨年度
進路・就職に関する支援体制の整備	2	4	0	0	3.3	3.7
学生相談に関する体制の整備	1	5	0	0	3.2	3.5
学生に対する経済的支援体制の整備	2	4	0	0	3.3	3.7
学生の健康管理を担う組織体制	2	4	0	0	3.3	3.5
課外活動に対する支援体制の整備	3	3	0	0	3.5	3.7
学生の生活環境への支援	1	5	0	0	3.2	3.3

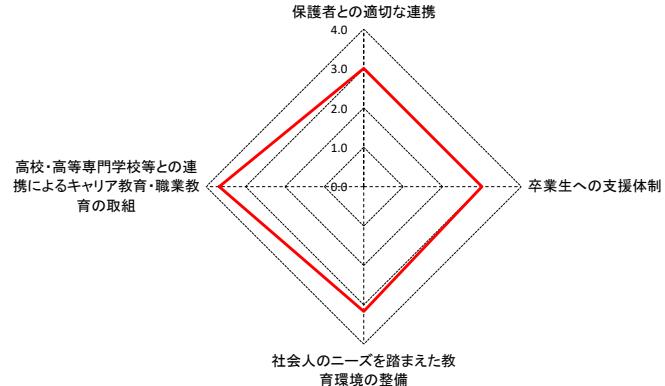


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 支援体制に対する先生方の自己評価が高くないのは、もっと支援をしたいが体制的に厳しいといった現状の現れではないかと思います。体制を充実させるためには、教員の増員が必要不可欠かと思います。
- 非常勤相談員（心理、福祉）の充実が、結果として財政的にプラスになる可能性もある。
- TAIに話せることと、それ以外の人に話せることと、両方を大切にしたい。
- 就職へ向けてのノウハウにつき、ハローワークや各種事業所におられるキャリアカウンセラー等の役割を持った専門職の支援を得ても良いのではないかでしょうか。働くための意識を高め、その質を磨く、良い機会になると思います。
- 未だ新型コロナウィルス感染防止の観点を無視しては行動できない情勢にありますが、Zoomミーティング等を活用した学外社会資源とのコミュニケーション機会の創出を期待したいものです。
- 現在の学生の事情を考えると支援する側の負担が大きくなってきており、支援体制の整備を早急に進めなければ教員側の負担は今後も増え続けるものだと思います。学生が安心して学べる支援体制を作ることは学生・保護者の満足度も上がり結果学校の評価も高まることにつながります。引き続き現在の課題にお取り組みいただきたいと思います。

(2) 連携体制

	4	3	2	1	平均	昨年度
保護者との適切な連携	0	6	0	0	3.0	3.5
卒業生への支援体制	0	6	0	0	3.0	3.5
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	1	5	0	0	3.2	3.5
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	4	2	0	0	3.7	3.7

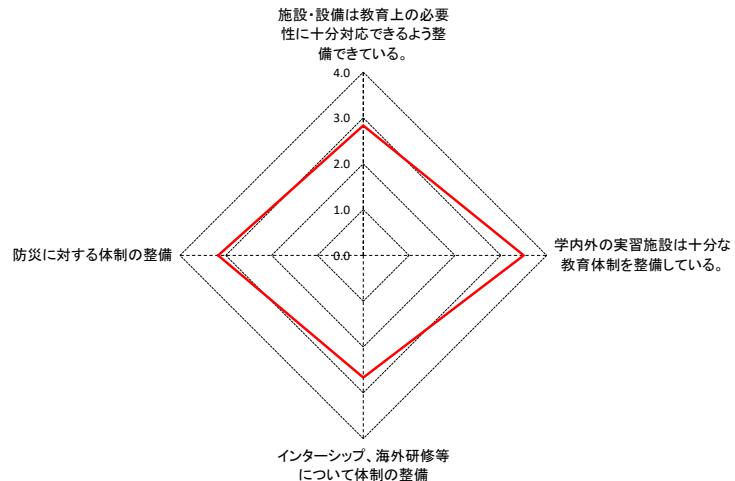


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 入学生（家族を含む）の情報について、高校への照会は積極的に行われてよいと思う。
- コンタクトの機会を設けてもなかなか応じていただけない保護者も多い事でしょう。他の保護者との集団的な接触を好みない方もおられるかもしれません。教員には負担となるでしょうが、個別面談の機会提供等、保護者の都合に合わせた場の設定を検討するのも一考かと思います。
- 卒業生との情報交換では、まさに今の介護現場の現状と課題が浮き彫りにされることでしょう。学校で学んだ理想と今の職場での現実、そのギャップに何らかの方向性を示唆できる教員の存在は重要だと思います。
- 一保護者との連携は、保護者側の意識の問題からご苦労されている様子が見られます。改善に向けた突破口はなかなか見いだせないかと思いますが、今後も丁寧に進めて信頼醸成を図っていただきたいと思います。
- 卒業生への支援・連携は、新たな学生の紹介や現場で求められている知識技能などの情報把握など多岐にわたって学校にとって大きな財産になるかと思います。学校組織として取り組みが進むよう検討いただきたいと思います。
- キャリア教育に関しては、高校のみならず中学校・小学校でも進んでいることから今後連携を検討を行っていただき、将来の学生確保にもつなげていただきたい。

6 教育環境

	4	3	2	1	平均	昨年度
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備できている。	1	3	2	0	2.8	2.7
学内外の実習施設は十分な教育体制を整備している。	3	3	0	0	3.5	3.2
インターフィールド、海外研修等について体制の整備	0	4	2	0	2.7	2.8
防災に対する体制の整備	2	3	1	0	3.2	3.0

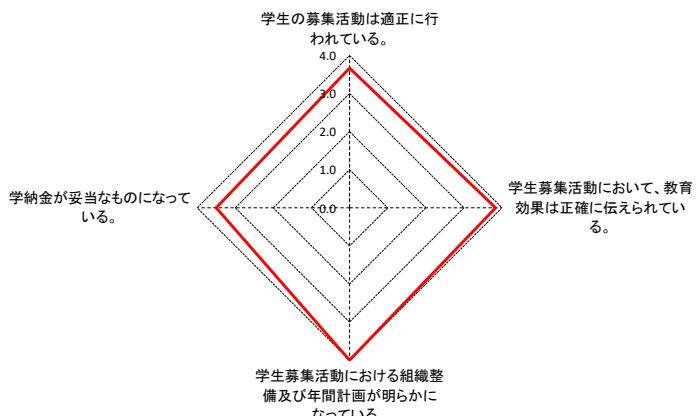


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 施設・設備の修繕等の課題を表出し、修繕計画がなされていると思います。継続して安心して学べる教育環境の改善に取り組んでいただければと思います。
- 防災に関して、専任教員だけでは限界があるため、訓練などを通して学生を育てることが肝要と思う。
- 施設・設備に関してはなにより安全・安心の整備が重要だと思います。そのためにはハードとソフトの融合が肝要で、教職員、学生が一体となっての意識づくりが大切ではないでしょうか。学校周辺を見渡しても低層の建物が多い中、高層である本校が災害時でのある程度の避難支援施設になりうる可能性があるようにも思えます。
- 実習発表会等に参加していると、学外の実習・演習施設の関係者の熱心さに感心させられます。そのネットワークを更に強力なものにしていく努力を継続することが大切だと思います。
- ハード面の問題は、財政的な課題を解決しなければ難しいと思いますが、学生や保護者が学校の魅力としてとらえる大きな要素でもあり、安全面からも着実に解決に向けた取り組みをしていただきたいと思います。
- 防災施設の不備や老朽化は、非常時に大きな問題になるケースが多いので早急に改善をお願いします。

7 学生の受け入れ募集

	4	3	2	1	平均	昨年度
学生の募集活動は適正に行われている。	5	0	1	0	3.7	3.8
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている。	5	1	0	0	3.8	3.7
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている。	6	0	0	0	4.0	3.8
学納金が妥当なものになっている。	3	3	0	0	3.5	3.8

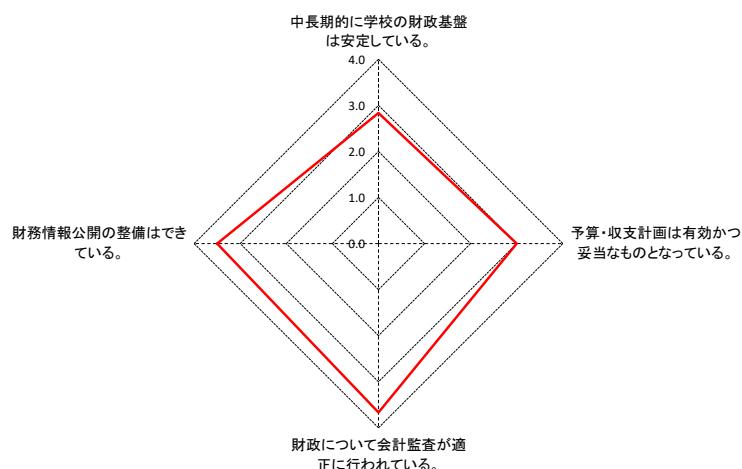


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 学校案内やニュースマガジンなど、広報誌の充実が見られます。学校評価にも記載されていた様に、今後は募集活動の時期や学年などの検討をしてよいのではないでしょうか。
- 適切かどうかはわからないが、技専生が少ないのは、学校だけの問題ではないが、2年連続技専生が少ない原因と対策はあった方が良い。
- 学生募集の中心は高等学校がターゲットとなるでしょうが、予てより主張している様に、小学生、中学生への福祉教育的アプローチも重要なと思われます。特に昨今、小学校における福祉教育の場において、防災・減災、福祉・介護の体験学習に特徴があるように感じますので、そこへのかかわりが見いだせれば、将来への布石にもなるのではないかでしょうか。小学校での活動を支援する社協や社会貢献団体、ボランティア団体との連携も必要かと思います。
- 釧根で唯一、介護福祉士を養成する学校としての独自性を前面にアピールする募集活動が大切だと思います。他都市へ転出しての生活には余計な費用がかかるリスクとの比較で、本校の優位性を主張したいものです。
- 現在も様々な工夫をしながら情報発信・募集活動をされていると思います。今後もそれらの募集活動の効果の検証をしながら、より良い活動につなげていただきたいと思います。一方で募集活動を工夫しても学生数増は別問題で他評価項目で表出した問題点・改善点に丁寧に対応していくことが大切だと思います。

8 財務

	4	3	2	1	平均	昨年度
中長期的に学校の財政基盤は安定している。	0	5	1	0	2.8	3.0
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。	1	4	1	0	3.0	3.2
財政について会計監査が適正に行われている。	4	2	0	0	3.7	3.5
財務情報公開の整備はできている。	3	3	0	0	3.5	3.3

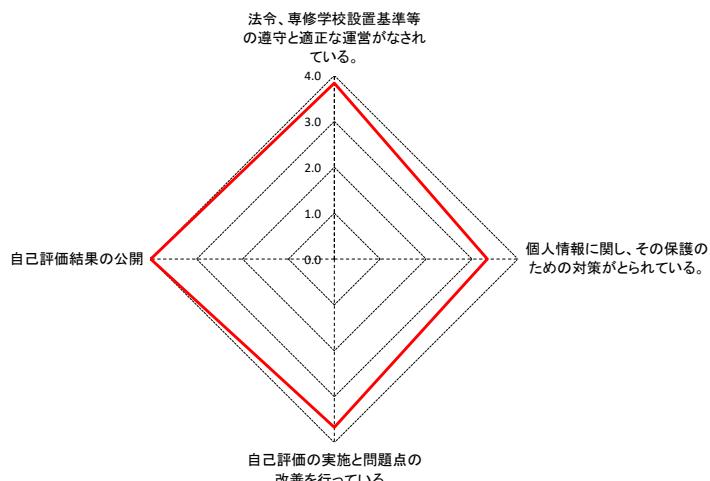


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 財政の安定には新規の学生の確保が何よりも王道かとは思いますが、現在専門職として働く社会人をターゲットとしたリカレント講座、学び直し講座などの有料事業を企画してはいかがでしょうか。既存の福祉事業所では十分な事業所内研修の機会に乏しいところもあり、事業所としても働く個人としても、目の前の課題を乗り越えるべき学びの場を求める意識を持つ方がいるのではないかと思われます。
- 教育機関への公的な助成の強化をあらゆる機会を通して求める事も大事ですが、各種民間助成財団等の助成組織が求める社会貢献活動への参画も検討してみてはいかがかと思います。本校の教員の専門性と学生の力、時には学外のボランタリーなアクションとのネットワークから、財政強化につながるもののが見えてくる可能性も模索してみたいものです。
- 財務状況については、勤務されている職員の皆様の関心も高い部分だと思います。現状把握や先の見通しについてコミュニケーションいただき、安心して学生に向き合える環境づくりをお願いします。

9 法令の遵守

	4	3	2	1	平均	昨年度
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	5	1	0	0	3.8	4.0
個人情報に關し、その保護のための対策がとられている。	2	4	0	0	3.3	3.7
自己評価の実施と問題点の改善を行っている。	4	2	0	0	3.7	3.7
自己評価結果の公開	6	0	0	0	4.0	4.0

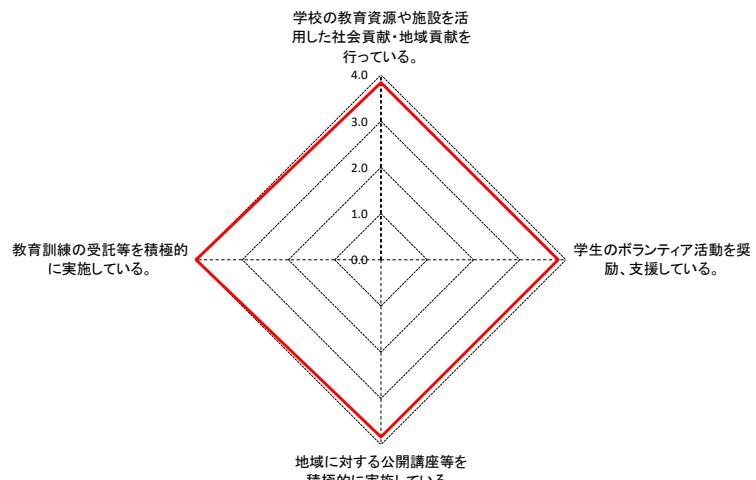


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- コンプライアンスを高めるということは、大変労力のかかることがあります。そのためには、改めてこの教育の現場に社会から求められている課題を再認識できる要素が含まれている、ということを感じ取って行きたいものです。
- 個人情報は「保護」の視点が先に立ちますが、本人の同意を前提として、より良き教育の高揚のための「活用」があつてしかるべきだと思います。何より教職員間での情報共有を前提とした協働なくして本校での教育は成し得ないと思います。チームアプローチが肝要です。
- 自己評価から改善の状況がうかがえますが、現状にとどまることなく今後も一層の向上の為にも出た課題を解決していく体制づくりを進めていただきたいと思います。

10 社会貢献・地域貢献

	4	3	2	1	平均	昨年度
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。	5	1	0	0	3.8	4.0
学生のボランティア活動を奨励、支援している。	5	1	0	0	3.8	4.0
地域に対する公開講座等を積極的に実施している。	5	1	0	0	3.8	3.8
教育訓練の受託等を積極的に実施している。	6	0	0	0	4.0	4.0



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- コロナ禍ではありますが、ボランティア活動は実践的な学びを深める貴重な活動なので、積極的に取り組むことを期待します。
- Zoomによる公開講座は参加しやすいので、是非継続してほしいと思います。
- 今年度も新型コロナウイルス感染防止対策の中でなかなか十分な機会が得られなかつたと思います。全国津々浦々からの情報からは、その環境の中でも種々知恵を働かせて、「離れていても繋がっている」活動を地道に展開してきた地域福祉団体も多く、そこからヒントを得て進める事も良いかと思います。
- 財政の項目でも記載しましたが、公開講座等は大変有効な学校アピールの場になると思います。本校の教職員ならではのネットワーク力で、魅力的な企画の創出を望みます。
- コロナウイルス感染症対策などにより、従来どおりの活動が難しいことだと思います。
- 学校の特色でもある社会貢献・地域貢献で全体として良い評価となっていることは日頃からの取り組みの成果だと思います。今後も継続した取り組みをしていただきたいと思います。
- 地域との結びつき・連携は、難しい課題ではありますが地域のニーズを探りながら学校として取り組めることを少しづつ進めていただきたいと思います。

●その他の課題

- キャリア教育の推進により、早期に進路を決定する傾向が強まる一方、実際に進学後に「ちがう」と感じて進路変更する者もいる。後者について、対応は難しいが、即退学ではなく、在籍して学び続けることへの応援ができないか、他の学校でも課題である。
- 私たちの地域では、保育・介護の従事者不足が顕著です。これは全国どこにいっても同じ課題に頭を悩ましているところです。少子高齢化という長年の課題が解消されないままにいることに大きな原因がありますが、の中でも地道に専門職者を世に送り出している本校の実績には大変重要なものがあります。それが毎年少数でも、です。その卒業生の姿を見て、私もある人の様に生き生きとした仕事に就きたい、と思う後輩たちが表れてくるのだと思います。私たち一人一人が学生と共に、自らの存在に「誇り」を持ち、胸を張って堂々といふことが大切だと思っています。
- 地域との結びつきについては、引き続き新型コロナウイルス感染症対策により何かを行うということは難しかった1年であったと思います。今後の終息後も見通せない中でありますので、この状況下で行えるかかわり方を模索する必要があるかと思います。地域の側も係わり方が、わからないのが実情でありますのでそこには知恵が必要です。

○考えられる改善策

- 卒業後の支援、学生理解の研修、その他、くしろせんもん学校単独ではなかなか難しいことであっても、他大学(短大、高専を含む)と共同のなかでならば、より進められることはないか。そのような模索もご検討いただきたい。
- これまで尽力して来ているところでしょうが、各種報道機関に「保育・介護の人材不足」の現状に注目していただき、特集や継続企画を検討していただくアクションをおこせないでしょうか。社会福祉法人の経営協や社協が進める人材センター等でも、全国・全道的に展開していくが、それらを参考とした、地域版を創出できないものでしょうか。また、やはり若者にはSNSです。Youtube配信などのアピールも有効です。専門企業に頼むと膨大な費用がかかりますが、NPO団体やこの種の技術を持つボランティアなどの協力が得られれば、楽しい企画となると思います。
- 長らく委員を受任しながらも、さほどの実績もあげられないところですが、本校を応援する気持ちは大きく持ち続けています。今後も微力ながらかかわらせていただければ幸いです。よろしくお願ひします。
- 課題解決の最大のネックは財務面だと感じますが、どのような企業・団体でも限られた財源の中で工夫しながら最大の効果を出せるよう努力しているものと思います。今後、人口減少の中で学生数も減少が見込まれる中、どの規模で学校運営を行うことで永続できるのか、を検討していくことも必要かと思います。またお金をかけるべきところと工夫で補うところ(我慢すべきところ)の考え方は、組織内の立場が違えば変わってしまいます。そのギャップを埋めるためには、さらなる組織内コミュニケーションが大切だと思います。学校職員が同じ認識で学生たちの為に良い学校づくりを今後も進めていただきたいと思います。

学校としての改善策

1. 教育理念・目的・育成人材像

- 入試式後の保護者説明会に加え、入学前、入学後の学生や保護者との面談を積極的に進めながら、学校の考え方や願い等の発信を更に力強いものにしていきたいと思います。地域住民に向けた情報発信についても、その可能性を探っていきたいと思います。
- 学校訪問・出前・来校授業・ホームページ・学校案内など、様々な機会を通して学校の将来像(構想)や取組等について発信を続けていきたいと思います。職員が「経営に携わる立場」と、その具現化を目指し「直に学生の教育に携わる立場」の両方の視点を持つことの大切さの理解に努めたいと思います。

2. 学校運営

- 今年度は、教員同士のフラットな関係性を築き、学生に対して柔軟な対応ができるることを目指した「ティール運営」への本格的な取り組み2年間が終了しました。教職員一人一人が各担当事項について責任を持って決定し進めていくことで学校運営を活性化させていくことがねらいですが、2年間の取組の中で、目指す姿には至っていません。しかし、「ティール運営」をどう本校の実状に当てはめていかかについては確実に前進しているいるように思います。目指す姿に近づくよう、共通認識(コミュニケーション)を中心に据え、取り組んでいきたいと思います。

3. 教育活動

(1)教育課程

- 職業実践専門課程の中心課題である企業・団体等との連携、職業教育の体系化などについて振り返りを持ち、充実させていきたいと思います。実習報告会については、来年度も企業等の関係者並びに委員に出席を依頼し、学生への励ましやアドバイスなど、職業生活への意欲づくりの機会にしていきたいと思います。

(2)指導・評価

- 評価・単位認定・進級・卒業認定については、学校自己評価においても「今あるものを再検討する必要性」が指摘されています。来年度は研修の機会を設定し、より良いものとするために取り組んでいきたいと思います。

(3)教員・研修

- 様々な課題を持つ学生個々の理解と関わり方(学生理解)」をテーマとしたに進めている研修会(全教職員対象)が今年度で4年目を迎え、年々学び(教職員の共通理解)が深まってきています。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2年連続で本校専任及び職員のみ参加での実施となりましたが、来年度は非常勤講師も含め従来の形で実施していきたいと思います。

- 今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から多くの研修会が中止となりましたが、一方でリモートによる研修会開催も増え、各人が積極的に研修会に参加しました。校外研修への参加は、教職員の資質・能力の向上に不可欠なものであることから、業務や経費の面からも難しさはありませんが、今後も計画的に進めていきたいと思います。

- 指導の振り返り(充実した授業づくり)を目標に進めている専任講師による「公開授業」「学生による授業評価」を今年度も計画通り実施することができました。今年度は、非常勤講師の公開授業も行うことができました。次年度は取組をより広げていきたいと思います。

- 教員及び講師の資質向上に向けて、研究・実践の成果を「研究紀要」としてまとめ、関係機関に発信していますが、今年度も第9号を発刊することができました。非常勤講師にも掲載のご協力をいただいておりますが、更に拡大しながら毎年の発刊を目指していきたいと思います。

4. 学修成果

- 退学・出席率・学びへの意欲などの問題解決への基本は「学生一人一人に寄り添い支援していく姿勢」(一人一人に応じた指導体制)を教職員全員で取り組み確立することです。今年度は退学者が多く、その原因は様々ではあるものの、上記「基本」の再確認が求められます。今後も教職員の共通理解を大切にしながら、意図的・計画的に進めていきたいと思います。

- 就職を希望する学生の就職率はほぼ100%であり、就職先もほぼ100%が学びに関連した業種になっています。ただし、卒業生の中には短期間のうちに離職するという事例も見られ、卒業後の状況の把握が課題となっています。学生との関わりを「卒業式」で終わるに限らず、卒業生の現状をおさえることを通して、現在学んでいる学生との関わり(就職指導等)に生かしていきたいと思います。

5. 学生支援

(1)支援体制

- 本校では、小・中・高校の学級担任に当たるTA(ティーチング・アドバイザー)をおき、個人面談、生活相談、教育相談、就職相談などを行っています。学生各々が持つ課題等は一人一人異なり、近年は関りを要する学生が増加傾向にあります。今年度は教職員の取り組みが一枚岩でなかつたことが見えてきたように思います。小規模校であることを生かし、個に応じたきめ細かな指導をTAを中心としながらも、科別ではなく組織として共有しながら進めたいと思います。

- 学生個々への関わり(支援)を充実させるために、昨年度から、教職員、学生(及び保護者)を対象とした面談(相談活動)を釧路市障がい者基幹相談支援センターにご協力いただいています。専門的な知識や経験をお持ちの方から、学生の状況の把握や支援の具体について、数多くのアドバイスをいただき、学生への支援充実に大きな力となっています。今後もサポートをいただきながら、学生支援を力強いものにしていきたいと思います。

(2)連携体制

- 本校で学び、その学びをもとに職業生活を送っている先輩から、働くことの喜び、やりがい、苦労、悩みなどの体験談を聞くことは、様々な面で学生に役立つとともに、本校教育活動の振り返りにつながります。オープンキャンパス、ホームページをはじめ、その他一層の機会設定について検討したいと思います。

- 学生が意欲的に学び、充実した学校生活を送る上で、保護者の役割には大きなものがあります。保護者との連携については、他管内在住の方も多く、難しさもありますが、これまで進めてきた入学当日の保護者説明会に加え、入学前、入学後の学生・保護者との面談を積極的に進め、学校と保護者の共通理解を進めたいと思います。また、高校からの情報提供についても大いに活用し、教職員がその情報を共有し、学生が充実した学校生活を送ることができるように支援していきたいと思います。

6. 教育環境

- 釧路市の補助金については教材等の充実に向けて年次計画を立てて執行しており、今年度は両科の新聞購読や図書購入を継続するとともに、年次計画に基づき介護実習モデルの購入しました。また、介護実習室の壁・天井の張り替えも行うことができました。次年度は、学生用コンピュータの購入(入れ替え)等を進め、両科の授業の充実を図っていきたいと考えています。財政的な面から、教育環境の整備を一気に向上させることはできませんが、今後も中長期的な展望を持ち計画的に進めていきたいと思います。

- スクールバスを利用した体験型の授業は、本校の特色ある教育活動の大きな要素になっており、今年度も大いに活用することができました。今後も一層の充実を図っていきます。

7. 学生の受け入れ募集

- 今年度もコロナ禍の中で制約された取り組みはありましたでしたが、今年度もホームページ、オープンキャンパス、高校訪問・出前・来校講座など、情報発信(広報活動)や学生募集活動を通して本校の良さの発信に力を注いで取り組んできました。また、3年半ぶりに復活させることができた、「SenSen(ニュースマガジン)」も内容を工夫しながら発刊を続けることが出来ており、資金面でご協力を頂いている多くの企業の皆様に感謝しています。高生の著しい減少もあり、ここ数年入学生数は依然として厳しい状況が続いているますが、本校諸課題改善への取り組みを基本としながら、ホームページの充実(学生による学校紹介動画配信等の新たな取組)、紙媒体の良さを最大限に生かした魅力ある「SenSen」づくり等に取り組み、学生増につなげていきたいと思います。

- 釧路新聞社・北海道新聞社による本校教育活動の紹介(応援)に心から感謝しています。今後も両社のお力をおりながら、本校の活動や魅力を市民に発信していきたいと思います。

- 本校の教員の状況から、防災に関しては、学生の力を生かす仕組みを作っていくたい。

8. 財務

- 充足率が50%を切っている状況が続いていることから、財務には厳しい状況にありますが、前述の広報活動・募集活動を充実させるとともに、在校生の学校に対する評価の向上(それが高校の後輩に伝わっていき、募集活動にも関わることから)、中退者減にもしっかりと向き合いながら進めたいと思います。

- また、限られた予算のなかで最大限の成果を生むように、今後も努力を続けていきたいと思います。

9. 法令の遵守

●法令遵守は組織運営の根幹に係わる最も重視されるべき事項です。引き続きしっかりと対応していきたいと思います。

10. 社会貢献・地域貢献

●社会貢献・地域貢献は本校が大切にし、力を注いでいる取組のひとつで、例年、学校関係者評価において最も高い評価をいただいている項目です。コロナ禍の中で、今年度も回数が減少したものが多くありましたが、出前・来校講座、地域から要請のボランティア活動、本校自然環境教育センター主催による市民参加型の「釧路自然再発見シリーズ」「講演会」、研究紀要の発刊など、可能な範囲で継続して取り組むことができました。来年度も積極的に取り組み、地域等の期待に応えていきたいと考えています。

●毎年10月に学生会主催の学校祭を開催し、地域住民の方に楽しいひとときを過ごしていただくとともに学校の良さなどを地域に向けて発信しており、学生にとって大事な取り組みの一つとなっています。令和2年度から、学生会活動のテーマを、「法人の「発展計画」に示されている学院・学園の在り方（方針）の中から「誰かに必要とされるって素晴らしい」とし、学校祭のねらいが「地域の方々との交流」「学校の認知度を高める」であることも明確化して取り組むことにしました。しかし、新型コロナウイルス感染防止の観点から学校祭は2年連続で中止とせざるを得ませんでした。今年度は、道による緊急事態宣言等により、教育活動（実習等）が当初予定通り行うことができず、行事計画もなかなか定まらなかつたため、地域に貢献する取り組みを実施することができませんでした。来年度は、上記学生会の思いを、まずは「町内会と連携した地域清掃」（令和2年度実施）という形で実現したいと思います。

※今年度は、全13項目のうち、平均値が昨年度を上回ったのは「2.学校運営」と「6 教育環境」の2項目のみで、3項目が昨年度と同数値、8項目が昨年度を下回りました。

※前年度比0.2ポイント以上の変動があったのは3つの項目で、0.3ポイント以上の減は「5 学生支援(2)連携体制」、0.2ポイント以上の減は「5 学生支援(1)支援体制」と「3 教育活動(1)教育課程」でした。

※13の項目で、相対的に平均値上位を占めたのは、順に「10.社会貢献・地域貢献」「3 教育活動(2)指導・評価」「7.学生の受け入れ募集」「1.教育理念・目的・人材像」「9.法令遵守」「3.教育活動(1)教育課程」「4 学修成果」で、平均値が3.5を上回っています。

※また、相対的に平均値が低かったのは、順に「6.教育環境」「5 学生支援(2)連携体制」「8.財務」で、平均値が3.3を下回っています。平均値2点台の項目はありませんでした。

※なお、小項目62についてみると、平均値が昨年度を上回ったのは13項目、19項目が同数値、下回ったのは30項目となっています。
